



株主のみなさまへ  
第24期報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

株式会社トランスジェニック

証券コード 2342



一人ひとりの健康と豊かな暮らしの実現をめざして



株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、第24期の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。当社は、「未来に資するとともに、世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する」ことを目指しております。

この経営理念を実現するために、当社グループでは基礎・探索研究から、非臨床・臨床試験まで網羅したサービスを行う創業支援事業を展開するとともに、グループの収益基盤の強化を目的として事業承継・再生事業分野を対象とした投資・コンサルティングを展開するTGBS事業を営んでおります。

当社は、各事業の事業特性に応じた最適な運営体制を構築し機動性の向上を図るために、昨年4月1日より純粋持株会社体制に移行いたしました。

また、本年1月1日に、PCR検査受託を通じて当社グループの業績に多大な貢献をもたらした株式会社ジェネティックラボの全株式を譲渡いたしました。これは、新型コロナウイルス感染症に終息の兆しが見えつつある一方で、依然として先行きが見通せない経済情勢の中、当社グループの持続的企業価値の成長を実現するためには、より一層の選択と集中が必要であると考えた結果です。

このような体制の下で事業活動を推進してきた結果、第24期は、前期を上回る過去最高業績を達成することができました。これも株主のみなさまのご支援があつてこそ、であり、心より感謝申し上げます次第です。

今後、当社は株式売却によって獲得した経営資源(資金)について、当社創業支援事業のコア事業であり、かつ成長途上にあるCRO事業と、短期間での実績を獲得してきたTGBS事業に対して、迅速かつ集中的に投下することを考えております。

なお、第25期の業績見通しについては、第24期上半期の新型コロナウイルス感染症におけるデルタ株感染の急拡大を受けてPCR受託検査数を大幅に伸ばした株式会社ジェネティックラボが当社グループから離脱した影響によって、現時点では、大幅な減収減益の見通しとなっております。しかしながら、前述の通り、われわれは経営資源を有効活用し、持続的企業価値の成長と拡大を早期に実現することが可能だと考えております。加えて、各グループ会社間でのシナジーの最大化や成長戦略の実現についても、引き続き推進してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、当社の取り組みにご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしく申し上げます。

2022年6月  
代表取締役社長 福永健司

当社は、2021年4月1日に純粋持株会社へ移行し、グループとして当連結会計年度に次のような活動を行いました。

創業支援事業においては、医化学創業株式会社が、SARS-CoV-2 スパイクタンパク質<sup>※1</sup>に対する抗体の性能評価に関する共同研究を国立大学法人熊本大学と実施している中で、当社独自技術を用いて開発した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)研究用エクソンヒト化マウスを活用することにいたしました。また、株式会社新薬リサーチセンター及び株式会社安評センターにおける非臨床試験や臨床試験の受託につきましても、営業活動の取り組みに注力し、新規受注が順調に推移いたしました。さらに、近年需要が高まっている病理ピアレビュー<sup>※2</sup>を、国内の主な製薬企業等に対して実施している株式会社ルナパス毒性病理研究所の全株式を取得しグループに加えました。

TGBS事業においては、「Eコマース事業」における消費低迷の逆風の中で、売れ筋商品の仕入れ確保に努めるとともに、「その他事業」においてもコロナ禍で総じて低迷していた売上を回復すべく受注活動に努めました。

なお、子会社である株式会社ジェネティックラボは、新型コロナウイルス感染症のPCR検査の受託を通じて主として上半期に当社グループの業績に多大な貢献をもたらしましたが、事業の選択と集中について慎重に検討した結果、2022年1月1日にその全株式を譲渡いたしました。

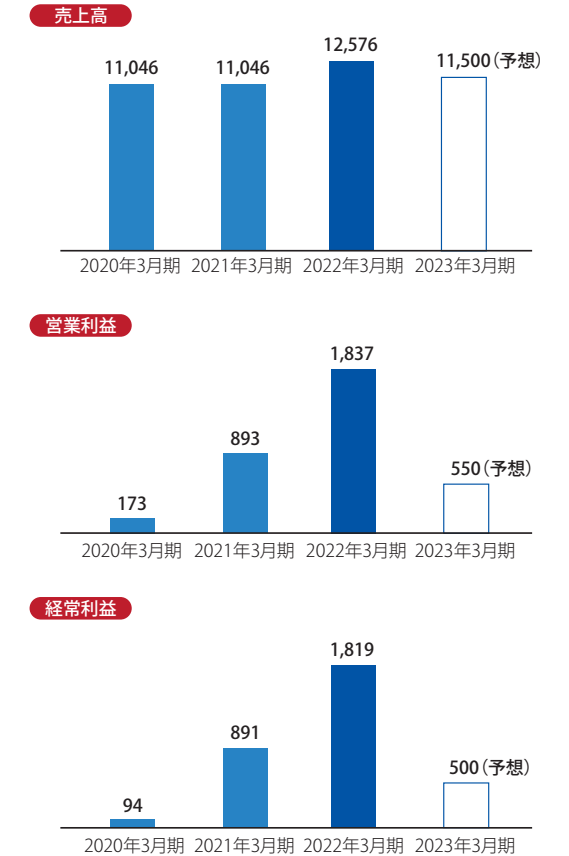
これらの結果、当連結会計年度における当社グループの売上高は、当上半期の北海道における新型コロナウイルス感染症の検査数の急増に伴いPCR検査の受託件数が伸長し、12,576百万円(前期比13.9%増)と大幅な増収となりました。また、営業利益は1,837百万円(前期比105.7%増)、経常利益も1,819百万円(前期比104.0%増)となり、それぞれ大幅な増益となりました。さらに、ジェネティックラボ株式の売却による関係会社株式売却益1,473百万円を特別利益として計上し、親会社株主に帰属する当期純利益も1,876百万円(前期比243.5%増)と大幅な増益となり、各利益とも過去最高益を更新いたしました。

※1 スパイクタンパク質：ウイルス粒子の表面に存在するスパイク(突起)状のタンパク質。ウイルスは、自分のスパイクタンパク質に糖鎖を付加させることにより細胞に侵入(感染)します。

※2 病理ピアレビュー：個人の経験・知識に依存する病理組織学的所見に対し、他の病理学者が公正に評価・論評することで、主観的判定のリスクを軽減し、診断の質と信頼性を高めるものです。

◆第24期連結累計期間の業績

単位:百万円



第24期定時株主総会 決議のお知らせ

拝啓 平素は格別のご支援を賜り誠にありがとうございます。

当社第24期定時株主総会におきまして、右記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

敬 具

●報告事項

- 第24期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)事業報告、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件  
本件は、上記事業報告、連結計算書類の内容及びその監査結果を報告いたしました。
- 第24期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)計算書類の内容報告の件  
本件は、上記計算書類の内容を報告いたしました。

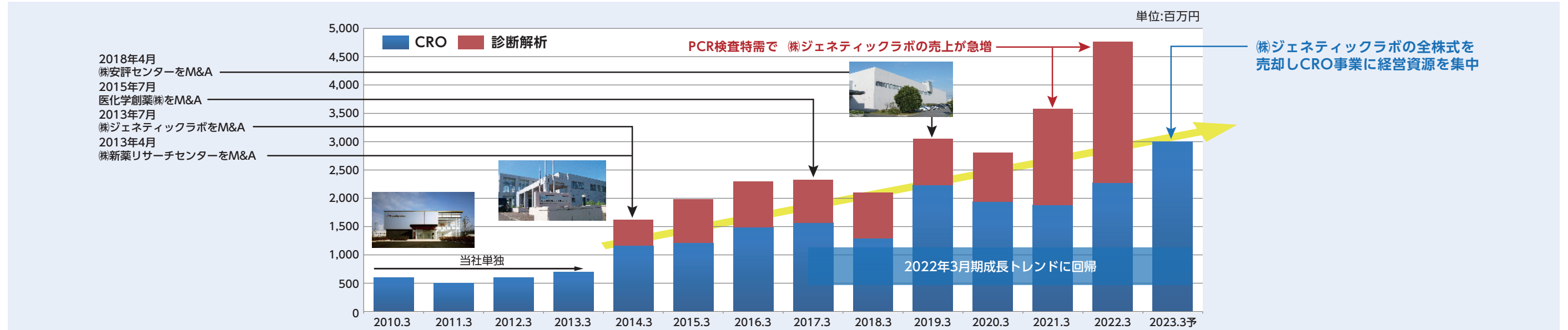
●決議事項

- 第1号議案 剰余金の配当の件  
本件は、原案どおり承認可決されました。
- 第2号議案 定款一部変更の件  
本件は、原案どおり承認可決されました。
- 第3号議案 取締役(社外取締役を除く。)に対する譲渡制限付株式の付与のための報酬決定の件  
本件は、原案どおり承認可決されました。



2022年3月期 売上高4,767百万円 営業利益1,776百万円

■創薬支援事業売上高推移及び2023年3月期見通し



■創薬支援事業サービスの特徴

最先端技術サービスを有し、基礎研究～臨床までカバーした創薬支援体制をグループ

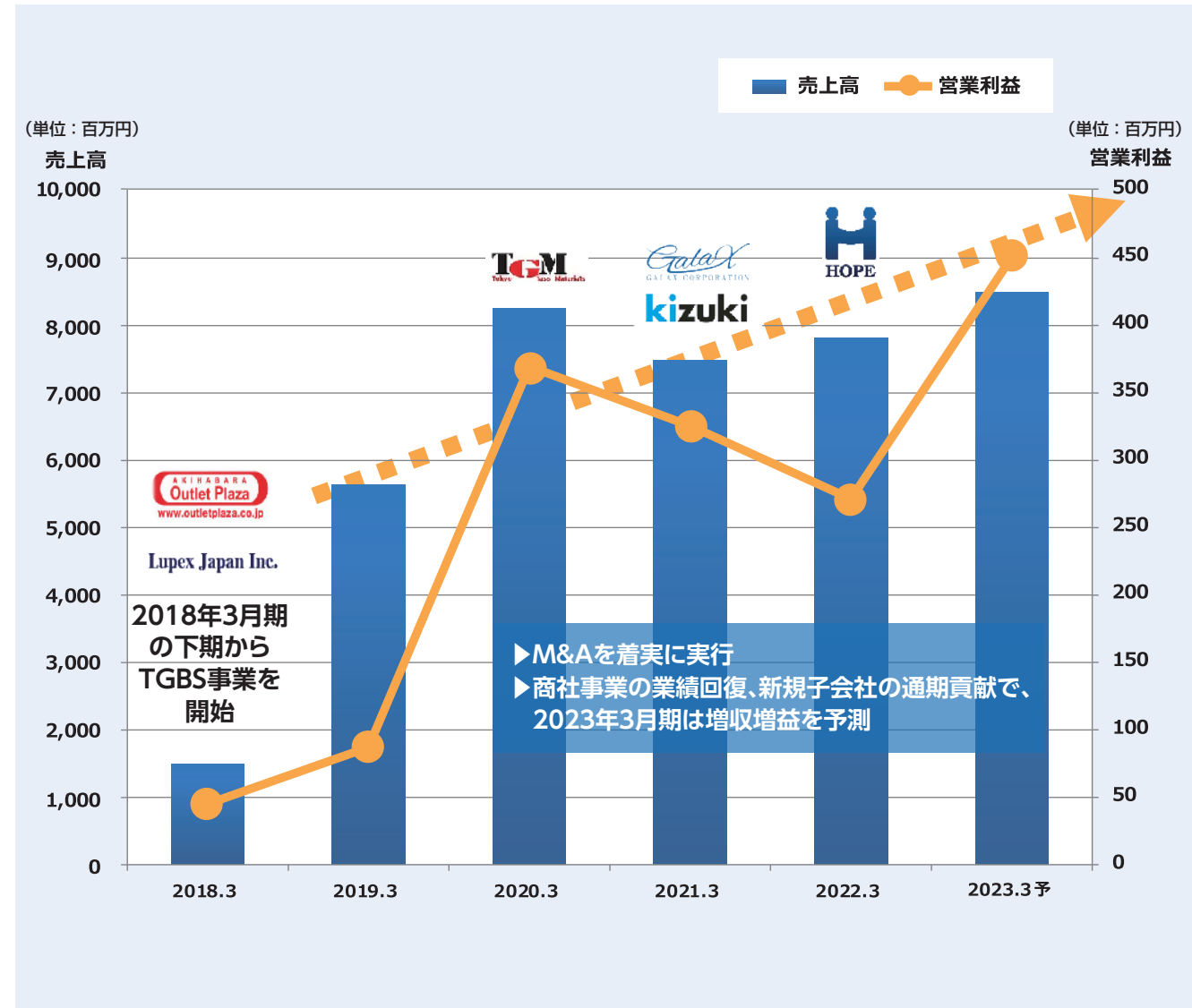
	基礎研究・探索研究	非臨床試験	臨床試験
株式会社 安評センター BSRC Biosafety Research Center	ゲノム編集技術等を用いた遺伝子改変マウスの作製受託及び開発	小動物～大動物の安全性試験 遺伝毒性試験・環境毒性試験	
株式会社 新薬リサーチセンター NDRC New Drug Research Center		小動物～大動物の薬理薬効試験	ジェネリック医薬品開発の 医薬品同等性試験 食品臨床試験
株式会社 メディフォム Mediffom Inc.			治験事務局業務、病院支援業務
株式会社ルナパス 毒性病理研究所 LunaPath LUNAS PATH	2021年11月1日付で全株式を取得しグループに加入	病理ピアレビュー	
医化学創薬株式会社 MCP	糖鎖受託解析、糖鎖受託合成 高親和性抗体作製受託及び開発		
株式会社 プライムイオン Primmune Inc.	抗体製品、サイトカイン販売		

■創薬支援事業主要トピックス

2021年	4月	(株)トランスジェニック	トランスジェニックグループ新体制スタート
	6月	医化学創薬(株)	熊本大学とのSARS-CoV-2スパイクタンパク質に対する抗体の共同研究開始
	8月	(株)トランスジェニック	新規肺がんマーカーに対する抗体ならびにその診断応用に関する中国特許査定
	9月	(株)安評センター	鼻部ばく露吸入実験装置SIS-R24-B型の導入
	11月	(株)トランスジェニック	株式会社ルナパス毒性病理研究所の子会社化
	12月	(株)安評センター	超高感度LC-MSの導入及び分析サービス開始
2022年	1月	(株)新薬リサーチセンター	微量生体試料分析装置HPLC-ECD/HTEC-510
		(株)トランスジェニック	東京大学医科学研究所先進動物ゲノム研究分野及びC4U株式会社とのTTRエクソンヒト化マウスを用いた遺伝子改変実験に関する共同研究契約締結
		(株)安評センター	TTRエクソンヒト化マウスを用いた遺伝子治療実験の検証
	2月	(株)安評センター	小・中型実験動物用3DマイクロX線CTシステムCosmoScan AXの導入
		(株)トランスジェニック	エクソンヒト化マウスに関する研究成果を「Biochemical and Biophysical Research Communications」に論文発表 ※Li et al. Biochem. Biophys. Res. Commun. 599:69-74, 2022.
		(株)安評センター	日東精工株式会社との業務提携契約締結
	3月	(株)トランスジェニック	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)研究用エクソンヒト化マウス完成
		(株)安評センター	熊本大学とのACE2エクソンヒト化マウスを用いたSARS-CoV-2スパイクタンパク抗体に関する共同研究契約締結
		医化学創薬(株)	

2022年3月期 売上高7,822百万円 営業利益271百万円

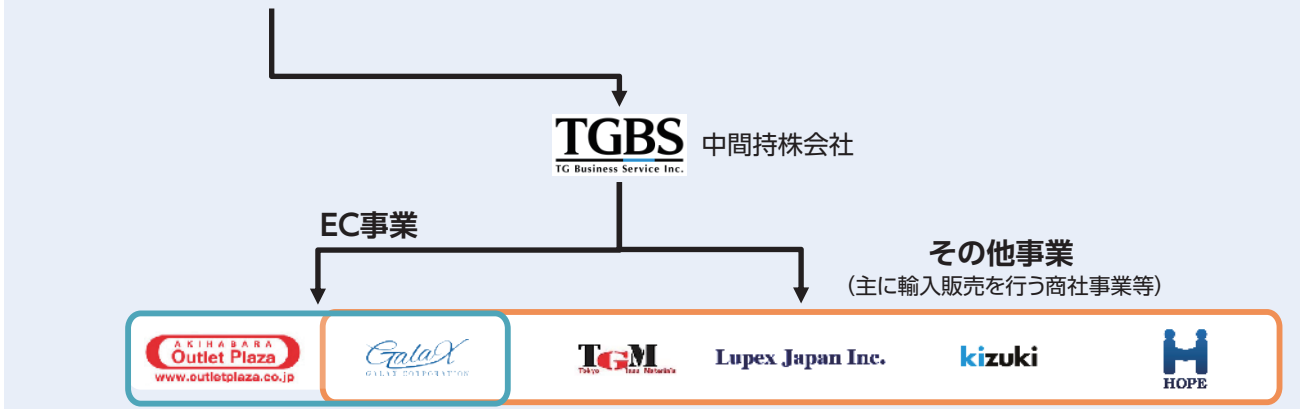
■TGBS事業業績推移及び2023年3月期見通し



■TGBS事業の投資先概要

中間持株会社TGBSから、EC事業及び輸出入の商社事業等を展開するその他事業の主要6社に投資を行いグループを構成

Trans Genic Inc. ※2021年4月1日に純粋持株会社に移行



社名	株式会社 アウトレットプラザ	ギャラククス貿易株式会社	株式会社TGM	株式会社ルーベックスジャパン	株式会社キズキ	株式会社ホープ
業務内容	家電に特化しECサイトにて販売	海外から直輸入した高級食器・雑貨を国内卸販売及びECサイトで販売	硝子加工専門商社として最先端製品導入からメンテナンスまで一貫対応	PCセキュリティ関連器具の開発製造を海外で行い輸入販売	広告代理店業務	プリンタトナーの輸入販売
強み	社歴を通じた知名度と仕入ルートに強み	社歴を通じた信用と強固な仕入ルートに強み	顧客ニーズに応える提案型営業に強み	ニッチな製品分野での高い市場占有率を維持	ユーザーのニーズに合ったメディアの構築	海外からの独自仕入ルートと、業界内での高い知名度に強み

## 会社概要 2022年3月31日現在

会社名 株式会社トランスジェニック  
設立 1998年4月  
資本金 50百万円  
従業員数 7名(単体) 213名(連結)  
事業所  
本社 福岡県福岡市中央区天神二丁目3番36号  
東京オフィス 東京都千代田区有楽町一丁目7番1号

役員  
代表取締役社長 福永 健司 常勤監査役 友永 良二  
取締役 北島 俊一 監査役 佐藤 貴夫  
取締役 船橋 泰 監査役 本坊 正文  
取締役 山村 研一  
取締役 渡部 一夫  
社外取締役 清藤 勉  
社外取締役 斎藤 穂高

## 株式の状況 2022年3月31日現在

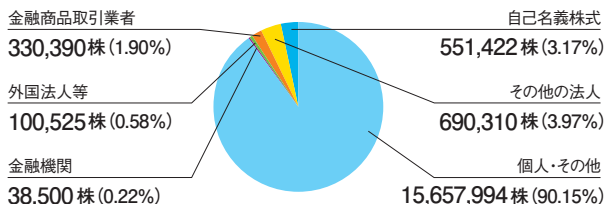
発行可能株式総数 43,630,100株  
発行済株式の総数 17,369,141株  
株主数 13,592名

### 大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
藤井 正樹	173,000	1.02
株式会社ムトウ	160,200	0.95
株式会社リムジンインタナショナル	152,900	0.90
原田 育生	141,400	0.84
福永 健司	134,000	0.79
山崎 学	120,700	0.71
水越 敦	102,600	0.61
磯部 源史郎	85,000	0.50
平川 徹	84,200	0.50
上永 智臣	82,700	0.49

(注) 1.当社は、自己株式を551,422株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
2.持株比率は自己株式(551,422株)を控除して計算しております。

### 所有者別株主分布状況



## 株主メモ

証券コード 2342  
上場市場 東京証券取引所 グロース市場  
上場年月日 2002年12月10日  
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関  
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1  
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

郵送先  
〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)  
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

### IRのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<https://www.transgenic.co.jp/>

当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聞かせください。  
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております

[ir@transgenic.co.jp](mailto:ir@transgenic.co.jp)

